

都市再生整備計画 事後評価シート

羽生田駅周辺地区

令和4年3月

新潟県田上町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	田上町		地区名	羽生田駅周辺地区			面積	60.5 ha		
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	2,151	国費率	0.414				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	【公園】原ヶ崎運動広場【地域生活基盤施設】憩いの広場【高質空間形成施設】あじさいロード(駅～公共施設)【高次都市施設】(仮)地域交流会館、地域観光情報案内施設【既存建造物活用事業】原ヶ崎センター									
			提案事業	【事業活用調査】事業効果分析調査									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【公園】原ヶ崎運動広場	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし			-			-				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし			-			-				
		提案事業	なし			-			-				
	交付期間の変更	当初変更	平成28年～平成32年度 平成28年～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	(仮)地域交流会館利用者数	人/年	19,288 (旧公民館)	H26	34,000	R2	-	37,754	○	あり なし	コロナ禍ではあるものの、田上町交流会館のオープンから間もないこと、コロナワクチンの接種会場になったこともあり、特に夏期の6～8月に多くの利用があった。結果として目標値を達成できた。	なし
	指標2	まちおこし活動参加者数	人/年	1,830	H27	15,000	R2	-	691	×	あり なし	田上町地域学習センターのリニューアル直後であり、住民への周知が浸透していないためか、目標値を下回る結果となっている。また原ヶ崎運動広場(炭焼き小屋等)事業が中止となったことにより、地域資源を活用した産品の開発・研究を行う団体等の利用が低下していることが要因と考えられる。	令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)
指標3	町民の暮らしの満足度	点	141.1	H23	152.8	R2	-	145.1	△	あり なし	目標値の152.8点には届かないが、従前値の141.1点を上回る145.1点となった。項目別にみると、「多様な交流の推進」が3.0ポイント増(45.0→48.0)、「地域資源を活用した活動の促進」が1.6ポイント増(45.1→46.7)であるのに対し、「高齢者の生きがいづくり」が0.6ポイント減(51.0→50.4)であった。本計画で整備した施設を活用した高齢者福祉対策がまだ不足していることが目標未達成の大きな要因であると考えられる。	今回計測時から概ね5年後(令和7年度を予定)	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	道の駅たがみの利用者数	人/年	-	-	/	/	-	472,602	/	/	令和2年10月のオープン以来、町内外から多くの来訪があり、併設する田上町交流会館と合わせて「目標1:多様なつながりを生み出す都市機能」としての指標となる。1年間(令和3年)で47万人もの人々が訪れており、これが町における新しい交流人口に直結し、多様なつながりに貢献している。	令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)
	その他の数値指標2	住民のまちづくりへの参加意識	%	10.0	H23	/	/	/	16.2	/	/	都市再生整備計画による各都市施設や道の駅等の物理的な整備により、住民にとって視覚的にまちづくりが具体化されてきていることが、まちづくりへの参加意欲の向上につながったものと考えられる。	今回計測時から概ね5年後(令和7年度を予定)
その他の数値指標3													

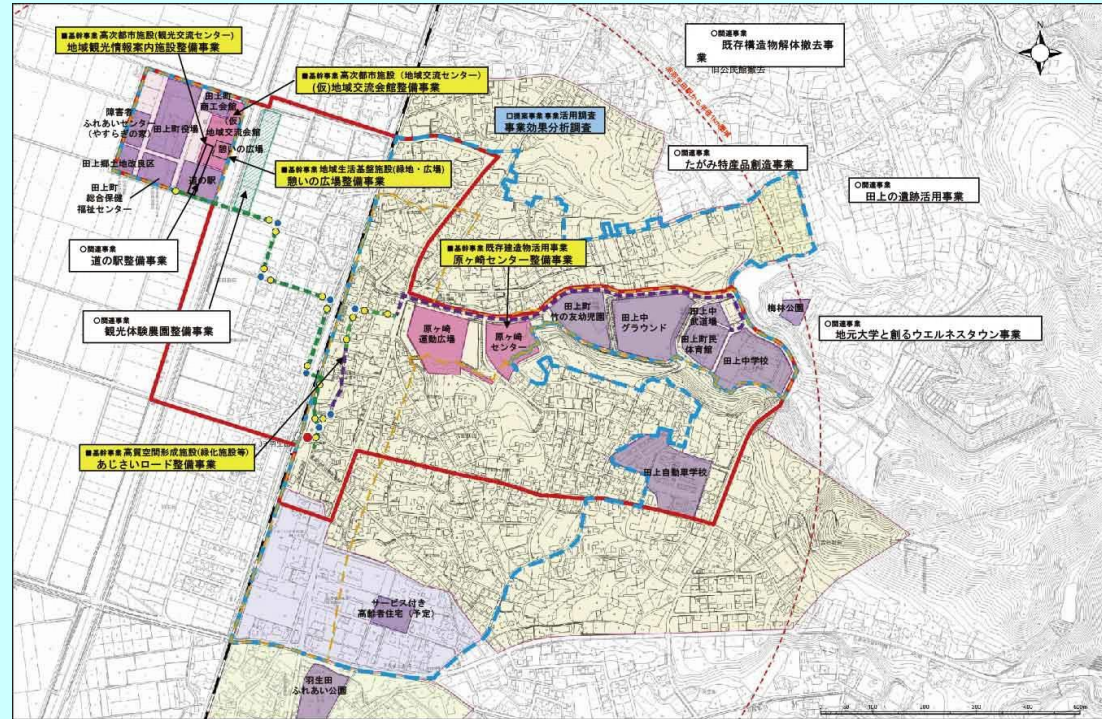
様式2-1 評価結果のまとめ

4) 定性的な効果 発現状況	<p>■道の駅たがみについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 直売場やコンビニは、町外来訪者のみならず、町内居住者の買い物やATM利用等の利便の向上にも貢献している。 地域福祉の充実に力を入れた「重点道の駅」に指定されており、高齢化が進む中で高齢者が社会参加し、活躍、交流できる場としての機能が期待される。 田上町と地元3大学(新潟薬科大学、新潟経営大学、新潟中央短期大学)が連携協定を締結しており、地域の担い手となる人材育成、若者ならではの視点を活かした地域づくりが期待される。 				
5) 実施過程の評価	モニタリング	なし	実施状況		今後の対応方針等
			都市再生整備計画に記載し、実施できた		-
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	住民参加 プロセス	「道の駅たがみ」利用者へのヒアリング	実施状況		今後の対応方針等
			都市再生整備計画に記載し、実施できた		● 特になし
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				
	持続的なまちづくり 体制の構築	なし	実施状況		今後の対応方針等
都市再生整備計画に記載し、実施できた				-	
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

羽生田駅周辺地区(新潟県田上町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
【大目標】町の拠点としての羽生田地区の賑わいをつくる。 【目標1】多様なつながりを生み出す都市機能の整備: 町民どうしの新たな交流・コミュニティの拠点、来町者と町民が交流を広げる拠点施設の整備。 【目標2】公共機能相互のネットワーク化とまちなかへの人の誘導: 駅と各交流施設を相互に結ぶ歩行者ネットワークの整備。 【目標3】町民参加による新たな地域価値の創造: 町民参加による特産品開発、町の魅力発信による地域経済の活性化。地元大学等との連携によるまちづくり推進。	(仮)地域交流会館利用者数	人/年 19,288 (旧公民館)	H26 34,000 R2	37,754 R3
	まちおこし活動参加者数	人/年 1,830	H27 15,000 R2	691 R3
	町民の暮らしの満足度	点 141.1	H23 152.8 R2	145.1 R3



まちの課題の変化

課題1: 新たに生涯学習の拠点となる「田上町交流会館」が整備されたほか、「田上町地域学習センター」を整備し、都市機能の強化が図られた。今後は、これら整備された施設を今後のまちづくりに有効活用していく必要がある。
 課題2: 来町者との多様な交流の場となる「道の駅がみ」が令和2年にオープンした。今後は、この道の駅を、地域の賑わいの創造や経済の活性化の場としてさらに有効活用していく必要がある。
 課題3: 既存施設である原ヶ崎交流センターを改修して「田上町地域学習センター」を整備した。今後は、この施設を活用し、地域資源を活用した地域ブランド商品の開発・研究・広報など、町民主体の具体的な活動を実践していく必要がある。
 課題4: 羽生田駅と各公共施設を相互に結ぶ「あじさいロード」を整備した。今後は、この施設の利用実態の把握と更なる利用促進を図り、特に道の駅を訪れる来町者をまちなかに誘導する必要がある。
 課題5: 町民のまちづくりへの参加意識は着実に向上していると考えられる。このため、今後は、まちづくりへの参加意識のある町民の活躍の場・機会を創出する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 都市再生整備事業で整備した「憩いの広場」、「田上町交流会館」、「地域観光情報案内施設」、「田上町地域学習センター」の施設概要、利用要件、活用事例などを積極的に周知し、利用促進を図る。
- 都市再生整備事業で整備したあじさいロードの補修、機能強化等により、さらに歩きやすくなる環境を整備する。
- まちづくりに対する意見を持ち、意欲ある町民が集まり、町の課題や今後のあり方などを協議し共有する機会を創出する。また、志ある若者等の意識高揚を図る。
- 各施設でのイベント開催や活動成果の発表、地域ブランドの開発・販売など、住民や地元団体が中心となったまちおこしを斡旋・支援する。
- 道の駅を利用する来町者や町民が歩いて羽生田駅周辺や田上町地域学習センター周辺を来訪し、地域との交流を深めるなど、にぎわいあるまちなかの創出を図る。